



# 三到図書館 ニュース

2016年10月発行  
No.79

J. F. Oberlin University Library

◇巻頭メッセージ  
◇選書ツアー報告

◇教員からのメッセージ  
◇読書運動プロジェクト

◇学生の図書館活用  
◇図書館からのお知らせ

## 📖 巻頭メッセージ

### 三到図書館昔話

教職センター長 樽松 かほる

私は来年の3月定年を迎えるが、在職中大学内の施設でもっとも継続的且つ最大にお世話になってきたのは図書館である。図書館の蔵書のみならず、図書館の司書の方々の親身になっての文献の探索や協力がなければ、授業の準備も研究もできなかったであろう。図書館に関しての思い出や想いは多々あるが、この機会にたわいもない昔話の一つを披露してみたいと思う。

本年、本学は設立50周年を迎えた。設立の前年、私は短期大学生として在籍していた。確か、10月か11月の頃のことであった。4年制大学設置認可ための現地視察を受けたが、図書館にクレームがついた。学園では、4年制大学と短期大学とで、一つの図書館を使用することを前提として準備していた。しかし、4年制大学と短期大学は別個の大学であるので、それぞれの大学に図書館が設けられていなければならないと、文部省から指摘された。以後一か月で整えるようにとのことであった。すなわち、一か月の間に、何万冊という本を収集、蔵書印を押すなどの事務的な手続きをして、分類ごとに配架した図書館を新たに設置することを要求されたのである。

翌朝、全学生がチャペルに集められた。安三先生は、「今、ワシの腹巻に10万円が入っておる。ワシはこれから関西に行き、友人、知人をかたっぱしから訪問して、本の寄贈を依頼してくる。皆さんは家にある本をもってきてください。」と言われると、席を蹴るようにして慌ただしくその場を立ち去られた。

それからの約一か月間は授業返上で、英語の時間は英文原書のカード書、ドイツ語の時間はドイツ語原書のカード書をそれぞれの授業担当の先生の指導の下に行った。その他の多くの授業では、日本語の書籍のカ

ード書、ラベル貼り、蔵書印の捺印作業に当てられたが、非常勤の先生担当の授業は通常に開講されていたと記憶している。学生たちは昼休みや放課後に書籍を整理している部屋に赴き、自発的に手伝いにいった。

もちろん、教職員は休日返上、時には徹夜をして、学園全体で奮闘していた。

いよいよ図書館にあてられた建物に本を運搬する時がきた。校舎から校舎の間に、バケツリレーよろしく学生が一列に並び、数冊ずつ手渡しで送っていくのである。だれの号令もなかったが、学生たちは、「オベリンのためならエンヤコラ！ヤッサンのためならエンヤコラ！」と、拍子をとって笑い転げながら本を運んだ。こうして、約一か月後、蔵書基準を満たす図書館が完成。めでたく認可が下り、安三先生と等身大の張りぼて人形の郁子先生とが壇上に並んで立たれ、万歳三唱。そして、祝いの提灯行列が繰り出された。

ところで、本学の図書館には意外と稀有な蔵書があって、これまで辞典項目などを執筆する際、ずいぶんと助けられてきた。なんでこのような書籍があるのだろうかといぶかしく思って蔵書印をみると、あの当時から蔵書であると想像できる書籍に出会うことがままあった。あの時、安三先生をはじめ学園中閻雲に収集したお陰かどうかは定かでないが、三到図書館には国会図書館や他大学にもないような貴重な文献が収められている。



## 本 と 私

健康福祉学群教授 森 和代

私にとって、本は、自分の世界を大きく広げてくれる入り口のドアです。

現在の私は、どちらかという、かなり活発で、積極的に行動する元気印のタイプだと思います。

しかし、一人娘で、母方の実家の初孫として生まれた子どもの頃は、今とはかなりちがっていました。周囲の大人の関心とサポートを一身に集めており、自己主張をしなくても、欲しいものは手中にある状況で、とても静かでおとなしい存在でした。小学校の通信簿には、いつも、理解できているのに挙手せず、消極的過ぎると記されていました。親はそのことをずいぶん心配したことだろうと、親という立場に身をおいてつくづく思います。

本は、そんな私の、小さな世界を大きく広げてくれる大切な鍵でした。すりガラスの扉がついた本棚にもたれて、本を読み耽っていた小学校時代の自分の部屋の光景は、今でも鮮明に目に浮かびます。本の中でもお気に入りには、叔父に貰った、ずっしりと重い世界童話全集でした。「ラプンツェル、ラプンツェル、髪を下ろしておくれ」という声かけに、高い塔の上から、三つ編みの長い髪をスルスルと下ろしている様子を、木陰から覗いている王子の木版画タッチの挿絵など、今でもはっきり思い出します。

中学・高校時代も、クラスで図書委員を引き受けることが多く、学級文庫の管理などを担当しました。さまざまな色別に区分された〇〇色の童話集というシリーズや、赤毛のアンシリーズなどが大好きで、通学時などに一生懸命に読んでいました。葛藤の多い世界からは遠ざかり、ファンタジーを好む傾向が強かったといえます。

大学に入り、これまでとはちがう広い世界に放り出

され、他者からの働きかけを待っているだけでなく、

自分から出ていかなくはダメだと気付いてから、消

極性や、夢見がちな側面は

ずいぶん改善されたように

思います。客観的にみると、

成長がかなり遅かったなあと感じます。この頃は専攻

の専門書の他に、遠藤周作の本をよく読んでいま

した。また、大人っぽく装いたくて、マックス・ウエー

バー、サルトルやサルンジャーなど難しい本も手にす

ることが良くありましたが、本当に理解はできてい

なかったと今にして思います。

数年前にゼミの学生から、若かったころの将来の夢

は何かと質問されたことがあります。キャリアの授業

の宿題で、大人に、かつて描いていた将来像を聞く

という宿題だったようです。忘れていた遥か彼方の夢を

思い出し「童話作家になること」と答えました。学生

の皆さんは、エーッ信じられない！と声を挙げて驚い

ていました。広くひらけた本の世界にいることを好ん

だ私は、それを作り出す人になりたかったことがよみ

がえりました。

心理学研究者という活動が主になって以来、研究の

ための専門誌を読み込むことに追われ、趣味の読書の

時間はほとんどない状況が続いていますが、職を解か

れ、趣味のための時間をつくることができるようになる

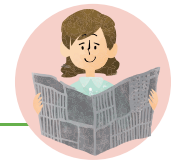
ことを楽しみにしている今日この頃です。

いつか私なりのファンタジーを生み出せたら良い

なあ……。



## 学生図書館活用方法



リベラルアーツ学群4年 高野 ほのかさん

## 【私と図書館】



私が図書館に行く時、日によって利用目的が異なります。読書をする為、課題をする為、勉強をする為、アルバイトをする為…空き時間や待ち合わせ時間までの暇潰しをする為、……挙げてみると相当あります。これらのような目的が無くても暇さえあればつい足を運んでしまいます。何故目的が無くても足を運んでしまうのかと言うと、図書館特有のあの紙の匂いがする空間に居るのが好きだからです。

私はこの桜美林大学図書館でアルバイトをしています。将来の夢の為に経験をできるだけ多く積みみたいという理由で始めました。募集を知ったきっかけはホームページでしたが、当時は募集時間と自分の時間割が合わず、断念することになりました。しかしそれから数ヶ月後、友人から声を掛けてもらったことにより念願の図書館のアルバイトに就くことが出来ました。

アルバイトを通して、図書館業務は勿論、利用者に対するサービスや利用者が困っていないかと思慮する為の視野を広げる必要性など様々なことを学びました。

私の将来の夢は司書教諭になる事です。この大学で教員免許と司書教諭に関する科目を修得すれば資格は取得できますが、司書教諭に関する科目は5科目しか無い為、それだけでは知識不足だと判断し、司書の資格を取ることを決めました。この資格はこの大学で取ることが出来ない為、夏休み期間に開講されたT大の司書講習を受けました。

実際に講習を受けてみて、まだまだ図書館についての知識を初めて知る事が多く、毎日とても充実した講習だと感じています。ここで学んだ知識と経験を将来の夢に活かしていきたいと思います。



リベラルアーツ学群3年 守田 友輔さん

## 【図書館でこそ新聞】



私は、図書館でアルバイトをさせていただいていることや、図書館読書運動プロジェクト（以下読プロ）に参加していることもあり、学生生活の中で図書館と関わる機会が多くありました。

実は、多く関わっているとは言ってもアルバイトや読プロの活動で通うことが中心で、本の貸し出しや自習などに利用することはあまり多くありません。そういう意味では他の学生とさほど変わりません。（そんなこと書いていると職員さんに怒られてしまいますが…）

そんな私ですが、ひとつお勧めしたい利用法があります。それは、図書館で新聞を読むことです。新聞ってとても面白い読み物なんですよ。世界で起きている問題や出来事、国内から地域のことまでありとあらゆることが取り上げられています。しかも、親切にわかりやすい解説まで書かれています。ほかにも、若者向けの芸能人や有名な教授からのメッセージや本のランキングなどを特集にしている読みやすいものもあります。

そして、折角図書館に揃えてあるのですから、多数ある新聞社の記事を読んでみてほしいです。一週間もパラパラ流し読みしてみればその新聞の構成が分かってきます。

さらにそれを各紙読み比べてみることで、同じ内容の記事でも主張や表現が異なっていることが見えてくるはずですよ。そうすることで、自分の中で物事を判断する尺度というか、基準のようなものができてくると思うのです。

ほとんど図書館の職員さんの受け売りですが、表紙を見るだけでもいいので新聞に接する機会を持ってもらえればと思います。



選書ツアー報告

第3回「学生選書ツアー」を開催しました

2016年8月5日(金) @紀伊國屋書店新宿本店



8月5日の参加者

2016年8月5日(金)に、紀伊國屋書店新宿本店にて、第3回「学生選書ツアー」を開催しました。

今回は9名の学生が参加しました。

選書ツアーとは、書店の本棚で実際に「本に触れて・見て・読んで」本学の図書館に蔵書として入れたら良いと思うものを選び、購入するものです。

今回は「どんな分野、どんな本を選びたいか」事前に各自選書の基準を決めてもらいました。「科学史や世界の伝説に関する本」「広告や出版に関するもの」「政治や憲法について学生でも理解しやすい本」「恐竜や宇宙に関する本」「現代こそ使える哲学の本」「タイトルでひきつけられるような本」「洋書の小説」等々選書への興味は尽きないようです。

この中で哲学の分野を希望する人が何人か重なった点が良い意味で意外でした。人文科学の魅力は健在なのでしょうか。参加者の中に中国からの留学生もいましたが、「中国の留学生が日本に興味を持つような図書を選びたい」「グローバルな人材の育成を選書方針としたい」といった一味違った視点もありました。いずれもみなさん選書へ熱い思いをもって臨んでいるのがわかりました。

実際の作業は、紀伊國屋書店の2階から8階のフロアで、気に入った本を見つけ、本のカバーについているバーコードを専用の読み取り機で読み取っていきます。1人あたり約3万円(15冊から20冊くらい)が目安です。約1時間半の所要時間内で選びます。

本を選び終えた後は、9階の控え室にて、紀伊國屋書店のポップの達人岡田充広さんの「ポップ講習会」がありました。ポップ作りのコツを教えていただいた後、各自選書した中から好きな本を1冊選び、ポップを作成します。ささっと作る人、うーんと考え込んでしまった人、達人にアドバイスを求める人など様々。後日のアンケートではみなさん面白かった、役に立ったということでしたので、講習会を開いてよかったと思いました。ただし、そのため選書の時間が短くなってしまい、それに対しては残念だったとの意見がありました。次回の選書ツアーに反映させたいと思っています。

この図書館ニュースがみなさんのお手元に届く頃には、選書ツアーで学生さんが選んだ本が、手作りのポップとともに、三到図書館3階の「選書ツアーコーナー」に展示されています。どんな本が選ばれたのか、どんなポップが飾られているのか、来館してぜひ見ていただければ、そして読んでいただければ幸いです。

(図書館メディアセンター 主任 矢部 知美)



選書ツアー参加者のみなさんの感想



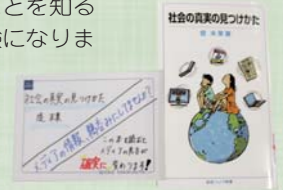
鎌田 卓さん (リベラルアーツ学群3年)

選書の時間が短く感じました。今回、私は事前に選書する本をメモしておき、当日集合時間前に紀伊國屋書店で本を検索し、売り場の確認を行いました。当日はその本を探すだけで選書の時間が過ぎてしまいました。選書ツアーの良いところは、その日、その書店で良いと思った本を選ぶという部分もあるので今回はその点が残念でした。今回初のポップ講習会は非常に良かったです。しかし、選書ツアーのメインは「選書」だと思うので、他のイベントに時間を割く場合は集合時間を早める等、行って選書の時間に余裕を持たせると良いと思います。



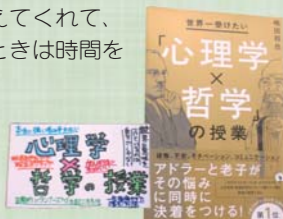
大山 恵美さん (リベラルアーツ学群3年)

たくさんの中から選書することができてとても楽しかったです。本を読み取る機械は操作が簡単でわかりやすかったので、スムーズに選書することができました。ポップ講習会は、お客様に見てもらえるにはどうすればよいか、字の大きさなど様々なことを知ることができて良い経験になりました。なので、今後の選書ツアーもやっていただきたいです。



戸崎 大地さん (リベラルアーツ学群4年)

自分で本を選ぶのは初めてでしたが、紀伊國屋さんの店舗がとても広く、たくさんの書籍を見て回るのがとても楽しく、読みたいと思う本がたくさんできたのが嬉しかったです。また、ポップ講習会では店員さんがやり方や楽しさを教えてくれて、ポップを作っているときは時間を忘れて「ずっとやっていたい!」と思ってしまいました。



劉 暢さん (留学生別科)

本をきちんと選ぶ責任と本を読む大切さを感じています。留学生のみんなにふさわしい本はどれか、日本人の学生たちにも知ってほしい知識はどの本にあるか、こういうことを考えながら本を選んでいました。ポップ講習会で、貴重なテクニックを学びました。普段当たり前だと思っていたことは、実はこんなに工夫されているとは、感心しました。



山中里帆菜さん (リベラルアーツ学群1年)

初めて選書ツアーに参加させていただき、とても楽しい時間を過ごせました。また機会があったら参加させていただきたいと思っています。次回は、小説なども選んでいきたいなと思いました。



読書運動プロジェクト

2016年度春学期 桜美林大学図書館読書運動プロジェクト活動報告



新入生勧誘活動

図書館読書運動プロジェクト（以下、読プロ）では今年も様々な新入生勧誘活動を行いました。その中でも特に力を入れたのが、毎年恒例になっている「公開ミーティング」です。4月から5月にかけて普段は崇貞館の4階で行っている読プロミーティングを図書館の前で開催し、昼食やお菓子を食べながら読プロメンバーと新入生が交流する企画です。図書館前なので場所もわかりやすく、多くの新入生が参加してくれました。その結果、今年は5人の新入生が読プロに入ってくれました！また、6月に少し遅めの新入生歓迎会を行い、読プロメンバーと新入生の親睦を深めました。



図書館の前で開催した公開ミーティング



新入生歓迎会



対外活動

読プロでは外とのつながりが多く、様々な活動を行っています。特に「Reader's Network」という読書活動団体には積極的に参加しています。この団体では、各大学にある読書マラソン委員会や読書サークルが集まり、大学生協杉並会館を活動の拠点としてお互いの活動の情報共有や合同で読書イベントの企画、ビブリオバトルの開催を行っています。具体的には、月に一度ミーティングを開き、自己紹介を交えながら各大学での活動を発表し合ったり、読書会

やビブリオバトルの練習、大学生協のメールマガジン「withnavi」に書評を書いたりしています。春学期は中島敦の『山月記』読書会を行い、一人一人感想を共有し、作品の魅力をさらに深く感じることができました。5月には、大学生協東京事業連合総会が開かれ、ますます読書推進活動が活発になっています。他にも9月には出版社見学を行い、編集者の方に貴重なお話を聴く体験もありました。また、相模原市立相模大野図書館で若者を対象に開催された「ティーンズ☆フェス2016」では読書会コーナーの企画を任せていただきました。そこで読プロは夏の「怪談」に合わせてビブリオバトル形式の「読書怪」をすることにしました。当日は、「読書怪」の司会や出場者としても読プロメンバーが関わったほか、フェス運営のサポートも行いました。今後も読プロは外のつながりを広げていきたいと考えています。



Reader's Networkの各大学代表者



ティーンズ☆フェス2016



読書会

例年通り、今年度も読書会を行っています。4月に米澤穂信著『氷菓』、5月に太宰治著『斜陽』を、7月に作家研究読書会として、12月に行われるイベントに呼ぶ作家さんを決めるために村山早紀著『ルリユール』と七尾与史著『バリ3探偵圏内ちゃん』を課題本としました。作家研究読書会は、『ルリユール』の方が好意的な意見が多く、現段階ではイベントでは村山早紀さんと呼ぶ方向に話が進んでいます。また、読書会に関するトピックスとして、図書館

職員さんの提案で、6月から「社会を考える読書会」を週に二回程度のペースで行うようになりました。これは「本だけでなく新聞記事やコラムなども『読書』と捉え、それを読んで社会について考えよう」という趣旨のもと、毎回職員さんが用意して下さった新聞の切り抜きのコピーなどを読み、考えようというものです。テーマは毎回異なり、例えば奨学金や同一労働同一賃金だったり、社会を取り巻く様々な問題を読プロメンバーが改めて見直す機会となりました。



「社会を考える読書会」の様子



読プロ棚

春学期の読プロ棚のテーマは、「食べる」。春になり、大学に入学し、初めて一人暮らしをするけれども、料理・献立作りが苦手...という新入生をはじめとする学生を対象にテーマを決めました。そのため、表紙から目を引く料理のレシピ本などが読プロメンバーのポップと共に棚を彩りました。レシピの他にも、弁当の本、栄養素の本、カロリーの本、果てはおいしそうな料理が登場する小説や絵本まで、「食べる」というテーマを様々な観点から見てセレクトした本が並びました。また、11月には再び棚がリニューアルする予定です。次はどんな棚になるのか、お楽しみに。



「食べる」をテーマにした本が並び読プロ棚



Twitter・ブログなどの宣伝

Twitterは不定期（1日1ツイートくらい）に担当者が、ブログは（だいたい）毎週読プロメンバーのうち一人が、ゆるく更新しています。Twitterは担当者が、読書会や読プロ棚完成、合宿やミーティングなど、その日に読プロが行ったトピックスや、担当者が個人的にその場で思ったこと、例えば、「こんな

時はこんな本が読みたい」とか、「三到図書館にこんな本がありました」といったことを宣伝しています。ブログは現在、1年生から3年生までメンバーが週替わりで担当しています。読プロがこれまでやったこと、これからやることなどをメンバー一人一人の視点から綴っています。

両方とも、更新し続ける予定ですので是非ご覧ください！

▶Twitter @obirin\_reading

▶ブログ http://obirin-read.jugem.jp/

読プロメンバーから一言

リベラルアーツ学群3年 徳田 千秋

読プロメンバーとして過ごす時間は、本当にあっという間です。それだけ様々な活動を行っています。特に私はReader's Network担当として、読プロと他大学や外のつながりを増やすべく、積極的に交流しています。それはお互いの活動の情報共有や企画やイベントのコラボレーションなど本当に幅広いです。今後も読プロは外のつながりを増やし、読書推進の輪を広げていきたいと考えています。ぜひあなたもその輪の一員になってみませんか。



リベラルアーツ学群2年 金子 勇輝

今年は我々2年生は読プロを引っ張っていく立場になりました。まだまだ組織の体制が整わない状況ですが、同じ学年内の学生同士の結束を強め、1年生がこれから本格的にプロジェクトに関わっていくよう活動しつつ、来年度への準備を進めていきたいと思っています。読プロの元々の活動の目的や理念を改めて確認し、しっかりした活動をしていきたいです。



リベラルアーツ学群1年 石川 舞

読書運動プロジェクトに入り、最初のミーティングに参加する時は緊張しました。説明会の時に、先輩からまじめな活動をしていると聞いたからです。その話を聞いた時は高校の委員会を想像し、厳しいのかと思いました。しかし、参加すると先輩方の和やかな雰囲気を迎えられて、緊張がほぐれてミーティングに参加することができました。読書運動プロジェクトは、メリハリのある団体だと思います。1年生ながらも、企画を任せてくださる機会があり、沢山の経験ができる団体だと思っています。



リベラルアーツ学群1年 熊橋 真人

私は本を読むことが好きなので読プロに入りました。読プロは様々な活動をしていて、私は読書会や「ティーンズ☆フェス2016」に参加しました。読書会では一冊の本について議論をしたりするのが楽しかったです。「ティーンズ☆フェス2016」では、他の学校や相模大野図書館の方々と一緒にイベントを運営しました。また、私はこのフェスで、ビブリオバトル形式の読書会にも参加しました。読プロに入ってから様々な経験ができるので、今後の活動も楽しみにしています。



(注1) 参加者同士で本を紹介し合い、最も読みたいと思う本を投票で決める催し。

## 自動貸出機の設置・企画展示のご案内



### 本の自動貸出機を設置しました

2016年9月中旬、貸出・返却カウンターの混雑緩和および図書館の利便性向上を目指して、三到図書館3階に自動貸出機を設置しました。

これにより、本の貸出と貸出期間延長の手続きは、自動貸出機でもできるようになりました。尚、DVD等の視聴覚資料、大型本、雑誌等の貸出、および図書資料の返却手続きは、従来どおり貸出・返却カウンターで行います。

貸出機の画面は日本語と英語で表示されます。ぜひ使ってみてください。



### 【企画展示】リベラルアーツ学群33専攻プログラム推薦図書

秋学期オリエンテーション開始時から10月末まで、リベラルアーツ学群の各専攻プログラムから推薦された図書計36冊を三到図書館3階で一堂に展示しています。

特に、これから専攻を選択するリベラルアーツ学群1~2年生はここにある本を手に取り、専攻選択に役立ててはいかがでしょうか。なお11月には一般書架へ移します。

推薦図書一覧表は、展示コーナーおよび下記のウェブサイトにあります。ぜひアクセスしてみてください。



桜美林大学図書館HP



ニュース



2016年9月12日【企画展示のお知らせ】リベラルアーツ学群33専攻プログラム推薦図書

(図書館メディアセンター 大谷 亜紀)

### ◇ 秋学期の図書館ガイダンスについてお知らせします ◇

#### ■文献探索セミナー

秋学期も、個人向けに、図書館案内、本の調べ方、新聞記事・雑誌論文の探し方、レポートの書き方等を紹介するセミナーを開催します。詳しい日程・内容につきましては図書館ホームページをご覧ください。



#### ■卒論・卒研作成支援

レファレンスカウンターでは、学生一人ひとりに、卒業研究・卒業論文作成のための文献や情報の検索方法を紹介する「卒論・卒研作成支援」を随時行っています。レファレンスカウンターにお申し込みください。

### ● 編集後記 ●

学生から「〇〇という本は何処ですか？」と尋ねられる。「この本ですか？」と図書館員が書架にある一冊を指し示す。学生は本を手に取り予想より分厚いことに軽く失望する。(えっ！これを全部読むの?)と顔に書いてある。／学生と読書に関するシンポジウムに参加した時、あるパネラーがアメリカの学校教育のなかで文章を読む技術としてskimming(拾い読み)、scanning(探索読み)、critical-reading(分析読み)を紹介した。授業で膨大な書物を読まねばならぬアメリカの大学生なら、これらのスキルがなければとても授業についていけない。／おそらく日本の学校教育では、こういう読書のスキルは殆ど教えないのではないか。読書とは、全部読む、内容を読み解く、自分の感想を文章化するものだと思う人は多いだろう。たいていの本は常に全部読まねばならぬ必要はなく、必要に応じて必要な部分を読めばよい、ということを知るだけで学生は随分と気が楽になると思うのだが、如何であろうか？(S)